

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所なんくるみいたち		
○保護者評価実施期間	2026年2月24日		2026年3月3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2026年3月2日		2026年3月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども一人ひとりの発達段階や特性、ニーズに応じて、さまざまな療育に対応できるプログラムを提供している。</li> <li>総合的な力の育成を目指した独自のプログラム「療育演劇テアトルedu」を実践している。</li> <li>子どもが家に帰って事業所の様子を語れるような、印象に残る活動や体験型のプログラムを取り入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読解力教室、ネイチャーゲーム、ビジョントレーニングなど様々な療育プログラムを取り入れ、各活動の様子については、おたよりやSNSを活用して保護者へ情報提供をしている。また、長期休みや祝日には様々な活動や経験ができるようにイベントを計画し実施している。</li> <li>独自のプログラム「療育演劇」を通して、運動、言葉、表現、コミュニケーション力、協調性など、総合的な力を身に着ける事のできる療育を提供。</li> <li>お友達の良い所を見つけ、誉める・認めることで、自己肯定感を育てることを目的とした「eduキッズアワード」を毎月開催している。友達同士で「よかったこと」を投票し、投票数の1番多い児童には、表彰状とご褒美を授与している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、活動プログラムについて職員間で検討・共有を深めながら、児童の成長や興味関心に応じた、楽しみながら取り組める内容を構築する。</li> <li>活動プログラム終了後には、児童および職員で振り返りを行い、気づきや課題を今後の支援や成長につなげていく。</li> <li>児童や保護者、関係者との情報共有や発信を継続し、施設と家庭が連携しながら、一人ひとりの発達に応じた支援の充実を図っていく。</li> <li>年齢や発達段階、特性に応じた役割(司会・書記・タイムキーパー等)を設定し、児童が主体的に活動へ関わる機会を増やすことで、一体感や自己効力感、自己肯定感の向上につなげていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>送迎のはしごを行わないことで、安心・安全に配慮するとともに、事業所での子どもの様子を保護者が直接見ることが出来るオープンな環境を整えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送迎にあたっては、職員のシフトを適切に調整するとともに、学校行事や下校時間の変更等を事前に把握し、円滑かつ安全に対応できるよう工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、学校や保護者と連携し、急な予定変更にも柔軟に対応できる体制づくりを進める。また、送迎ルートや時間帯の見直しを行い、より安全で効率的な送迎の実施に努めていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育活動の充実にあたっては、安心・安全に配慮し、子どもたちが楽しみながら食への関心を高められるよう取り組んでいる。</li> <li>施設内の畑を活用し、野菜や果物の栽培を通して食への関心や興味を引き出す取り組みを継続的に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手作りの昼食、おやつを提供している。温かみのある食事を通して、食への関心を持つ機会を提供するとともに、栄養バランスにも配慮している。</li> <li>施設内の畑を活用し、野菜や果物の栽培から収穫・食体験までを一連の活動として取り入れ、子どもたちの食への関心や主体的な関わりを引き出している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育活動の充実として、児童が育てた野菜を使った調理体験や簡単なおやつ作りを取り入れている。食への興味を高め、職員、児童ともに学びを深めていく。</li> <li>調理活動や食育活動への展開、個別支援計画との連動、保護者への情報発信を通して、より充実した取り組みへと発展させていく。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、保護者会等を開催しているが、リアル開催の保護者の交流の実施が少なかった。</li> <li>家族交流について、十分に交流の機会を作ることができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月開催している親の会「まんじん」の開催や事業所内のイベントを通して、保護者が参加する機会を呼びかけた。様々な感染症を考慮して、ZOOMでの開催となり、保護者が交流する機会を多く設定することができなかった。</li> <li>計画的な実施ができておらず、保護者が参加しやすい時間帯・形式の検討が不十分であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加しやすい曜日や時間、参加してみたい内容や開催方法について、保護者や職員から意見を聞きながら、定期的に開催できるよう努める。</li> <li>今後は、年間計画の中に家族交流の機会を位置付け、計画的に実施していく。また、短時間やオンライン等、参加しやすい形式を取り入れ、交流機会の充実を図る。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害非常時の対策についての周知の不十分さ</li> <li>保護者へのペアレントトレーニングのプログラムの提供ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害や緊急時のマニュアルやBCP、訓練の開催について保護者へ周知しているものの、細かな内容や訓練の様子について、情報共有が十分に行われていない。</li> <li>ペアレント・トレーニングの実施に向けた職員の専門性や体制整備、保護者が参加しやすい設定の工夫が不十分であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練の実施状況を写真や動画で記録し、面談などで保護者に共有すると共に、SNSやおたよりの貼りだしなどで情報発信を行う。</li> <li>今後は、心理士等の専門資格を有する職員の確保に向けた採用活動に努めるとともに、既存職員に対しても研修を通じて専門性の向上を図り、事業所全体として家族支援の質を高めていく体制づくりを進めていく。</li> </ul>
3	児童が安全に過ごせる空間づくりの課題	施設や設備の老朽化や劣化に伴い、修繕が必要な箇所が増えてきた。本棚の歪み、壁に空いた穴、屋根の修繕など、職員が安全を考慮しながら修繕に取り組んだ。また、施設内ではポスター等で情報を視覚化し、分かりやすい環境を心がけている。	職員が安全を意識して、修繕作業や環境整備を積極的に行い、保護者やスタッフのフィードバックを受付ける。柔軟に改善を図れるよう、職場の声を反映した空間作りに取り組む。